

1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。  
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

あと一歩あと一歩

神山小学校 五年 日高 駿太郎

ぼくは、宿泊学習でたいこ岩にのぼった。

天気が悪く登れそうではなかったが、みんな

なの目が「絶対のぼってやる。雨ふるなら」と

目をしていた。やっぱりぼくたちのクラスは、

雨に負けない。

最初に、バスに乗り、白谷雲水峡までいっ

た。みんなどきどきしながら、スタートした。

一番最初に大きな岩を進んでいった。岩を

歩いていくうちに、木々たちがさわいでいる

いるように聞こえた。研修センターの、まる

ちやん、さっちゃんにいろんなことを教えて

もらった。こけのことも教えてもらった。ふ

さふさのこけ、がらがらのこけ、小さいこけ

いろんなところを見れば、いろんなこけがあ

った。

木にも変化があった。木の皮がはげている

のとふつうの木。木の皮がはげているのをさ

わった。うすく冷たく、わっしょいとおもわず

16. 1

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。  
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。  
 2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ） 月 日 曜日

声を出してしまった。この木はなんだらうと  
 思ってたので、さっちな人に木のことを教え  
 てもらった。  
 「この木は、ヒメシヤラだよ。昔、山に  
 いる人たちが、クラーのようにして使っ  
 ていたんだよ。」  
 森には、ぼくたちを助けてくれる木があるん  
 だと思っただ。  
 お昼になつてみんなで、木のテーブルにす  
 わって丸くなつて食べた。いつものふつうの  
 ご飯が、みんなでしゃべりながら食べれば、  
 あつというまに食べおわり、ごちそうさま。  
 まるで、まほうの粉がかかっただようだった。  
 ご飯を食べおわつて、出発した。歩いてい  
 ると、トンネルの木があった。そのトンネル  
 の中でぬがいをするとかなうらしい。ぼくは  
 心の中でぬがいた。たいこ岩に、みんなけ  
 がなく登れますように。  
 この急な坂を登れば、たいこ岩にとう着た。  
 あと一歩、あと一歩と思ひながら、手が足を

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。  
 4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



